

「子育てに関するアンケート」集計結果

(2016/02実施:男女共同参画キャリア支援センター)

お子さんをお持ちの教職員に対して、子育ての現状の把握をし、保育支援のニーズ(院内保育園の運用、ベビーシッター費用補助)の検討をするために、平成28年2月1日現在で小学校6年生までのお子さんをお持ちの教職員(産休・育休中の教職員を含む)へ、アンケートを実施いたしました。
アンケート結果の概要は次に示したとおりとなります。

- お子さんの年齢が高くなるほど、就労している割合が減少している。子どもを持つ女性の就労継続が困難であることが分かった。
- 核家族が多く、日常的にお子さんをみてもらえる親族がいない世帯が多いことが分かった。
- 保育施設などの利用者のうち、平均的な時間が1日あたり10時間以上とするものが29.8%であった。また、利用する保育施設は自宅近くが71.5%、通勤途中17.5%、勤務地近く9%であった。利用していない理由は、父母のどちらか(特に仕事をしていない母親と思われる)がみているケースもあるが、幼稚園、保育園に空きがない実態もある。
- 小学校のお子さんの場合は、平日はほぼ毎日学童を利用しており、午後8時までのケースもある。
- 土日祝日の就労時には、父母のどちらかあるいは親族(同居・別居ともに)が見ているケースが多いが、子どもだけの留守番も多かった。
- 当直や宿泊を伴う出張などの場合は、同居の家族がみているケースが多かった。この場合は、家族としての休日が無い不満があげられている。
- ベビーシッターの利用者はまだまだ少ない。職種別では教員の利用が多い。
- 子どもが病気やケガで登園や登校できないときの 病児・病児後保育利用は、定員の関係か、利用は少ない。親が休む、親族(同居、別居)が看るケースが多い。「子どもが病気の時は親が看るべき」といった意見と、「病児保育の拡充」を求める意見が分かれた。
- 意見が分かれた質問

	利用したい	利用しない
31.就業時の土曜・休祝日の日中対応について、臨時一時預かりができた場合	41.5%	28.0%
33.就業時の夜間対応について、24時間保育や夜間の臨時一時預かりができた場合	16.9%	42.9%
36.子どもが病気の時、院内保育施設利用あるいは、院内で臨時病児預かりの支援ができた場合	53.5%	20.5%
38.ベビーシッター費用補助の利用	28.3%	29.9%

10. 制度の理解

	知らない	
	40.産前産後休暇制度	5.0% (M22,F9)
41.育児休業制度		5.9% (M26,F10)
42.短時間勤務制度		8.6% (M36,F17)
43.子の看護休暇制度		56.6% (M133,F214)

- 妊娠の報告のためらい、マタニティハラスメントやパタニティハラスメント(マタハラの男性版)などについては、ハラスメントの具体例の提示、支援制度の周知や啓発および相談体制などの対策が必要。

【アンケート実施数】

対象	配布			回収					合計(%)
	男性	女性	合計	男性(%)		女性(%)		不明	
1研修医・大学院生	19	6	25	6	31.6%	9	150.0%		15 60.0%
2教員	239	60	299	93	38.9%	31	51.7%		124 41.5%
3看護職	51	342	393	27	52.9%	245	71.6%		272 69.2%
4コメディカル職	78	65	143	43	55.1%	48	73.8%		91 63.6%
5事務職	43	65	108	32	74.4%	55	84.6%	1	88 81.5%
6その他	0	21	21	2		22	104.8%		24 114.3%
7不明						1			1
合計	430	559	989	203	47.2%	411	73.5%		615 62.2%

- 回収率が100%以上の職種については、職種的回答に誤りがあったと思われる。

【アンケートから見えた現状】

核家族が多いことから、所定労働時間の短縮措置の期間については「小学校6年生が終わるまで」の希望が多い。また、時短勤務にもかかわらず人員不足、業務多忙により超過勤務となることへの不満が多くあげられた。柔軟な勤務体制の導入の検討とあわせて、職種、職場によって満足度やストレス度が大きく左右されることなく、また子育て支援の充実が勤務の強要とならないよう、各部署においては個々の環境を充分に把握し、様々な働き方をマネジメントして業務を円滑に遂行することが求められる。

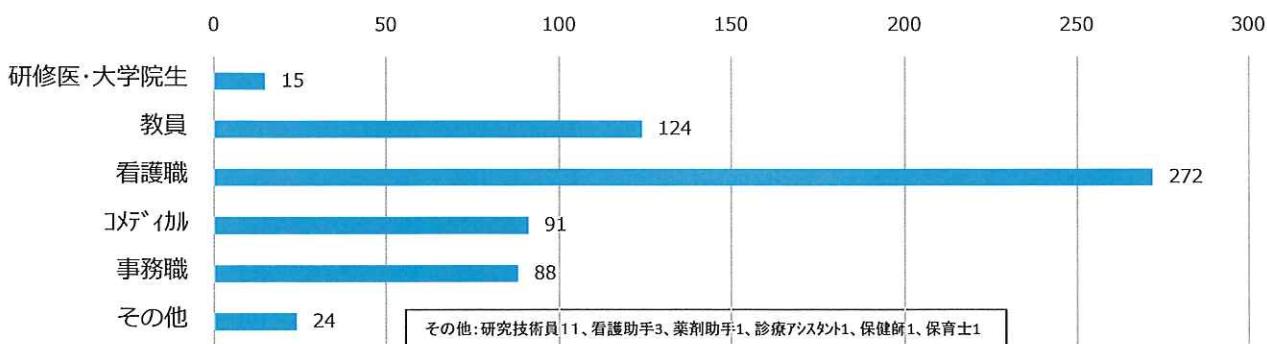
子育ての世代には共働きが多く、父母が休日をやりくりしていることから、家族の休みが無いことへの不満にも繋がっている。

このたび本学は、神奈川県内の医学系大学で初めて「くるみん」が認定された。今後も子育て支援や制度の利用推進と、マタニティハラスメント・パタニティハラスメントにより不利益な取り扱いがない職場環境を継続して整える必要がある。さらには子育て支援を事業として捉え、現在の子育て世代のみならず、これから子育て世代へのアプローチが重要である。

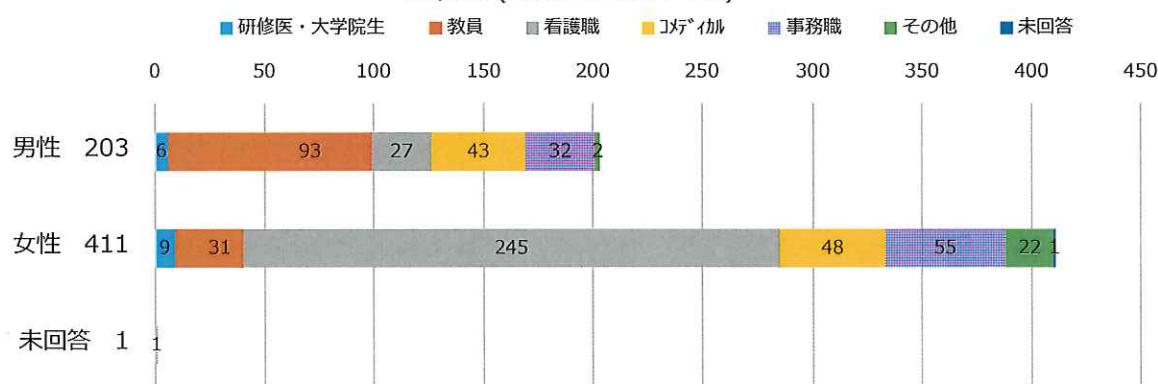
政府の「新三本の矢」の第二の矢に掲げられている「夢をつむぐ子育て支援」が本学においても実現し、教職員のモットーとなるよう、取り組まなければならない。



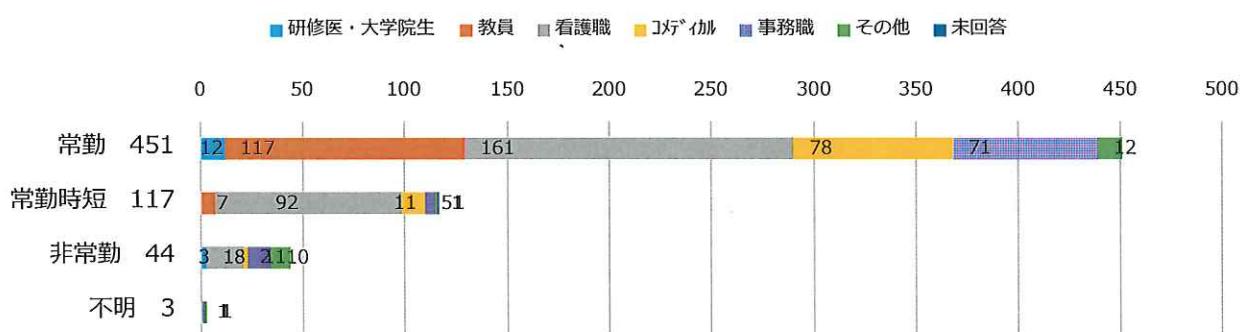
1.職種n615



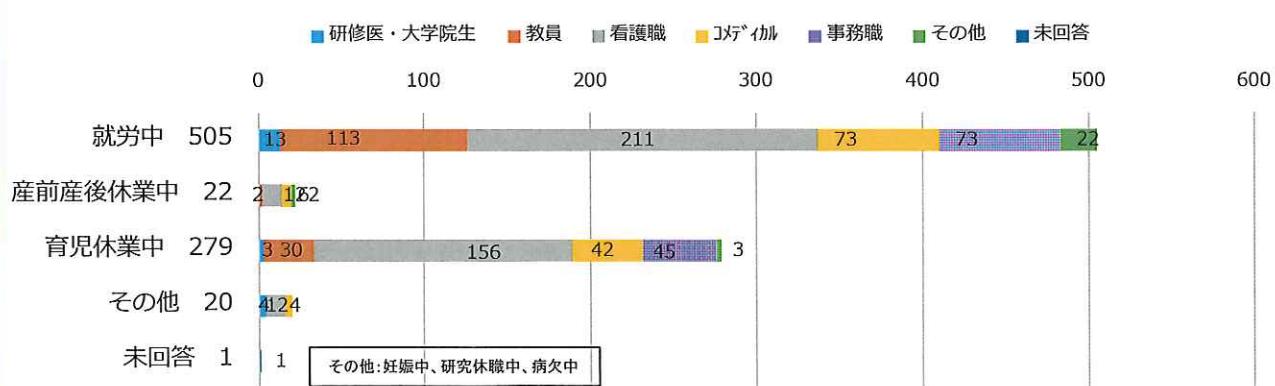
2.性別(n615、M203、F411)



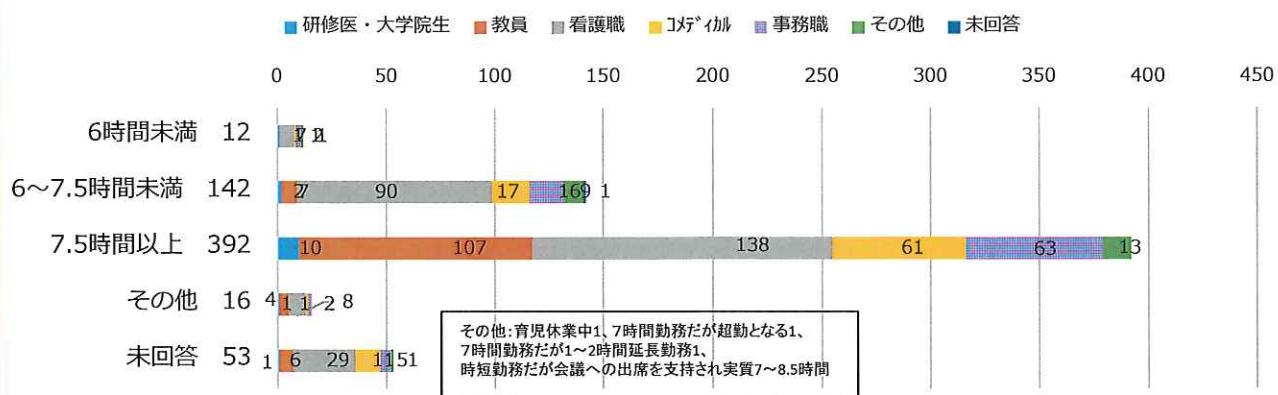
3.雇用形態n615



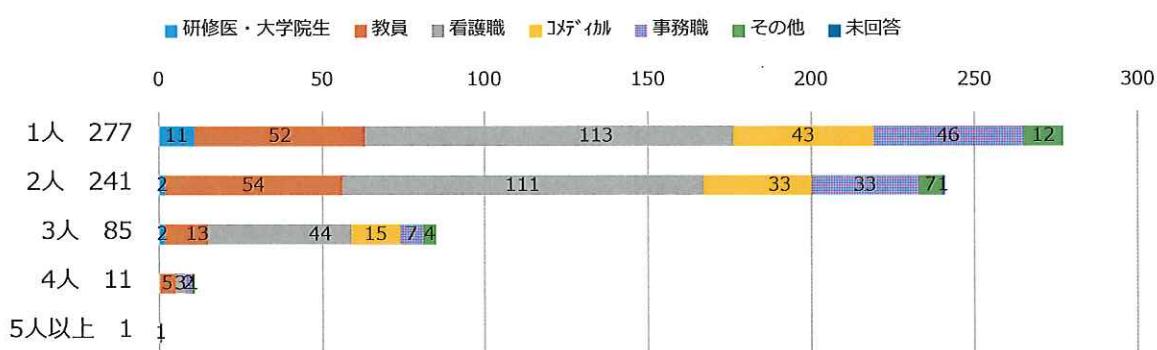
4.就労状況n615



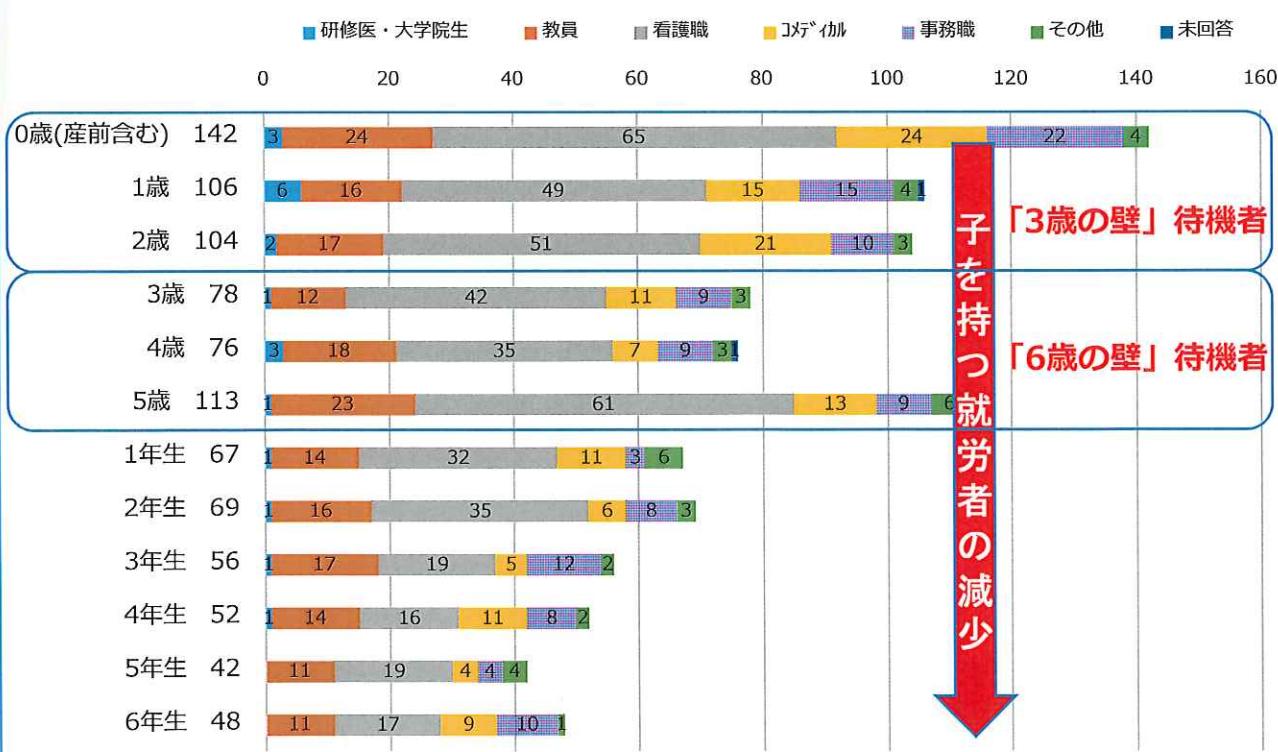
5.就労している場合、1日の勤務時間n615



6.お子さんの数n615



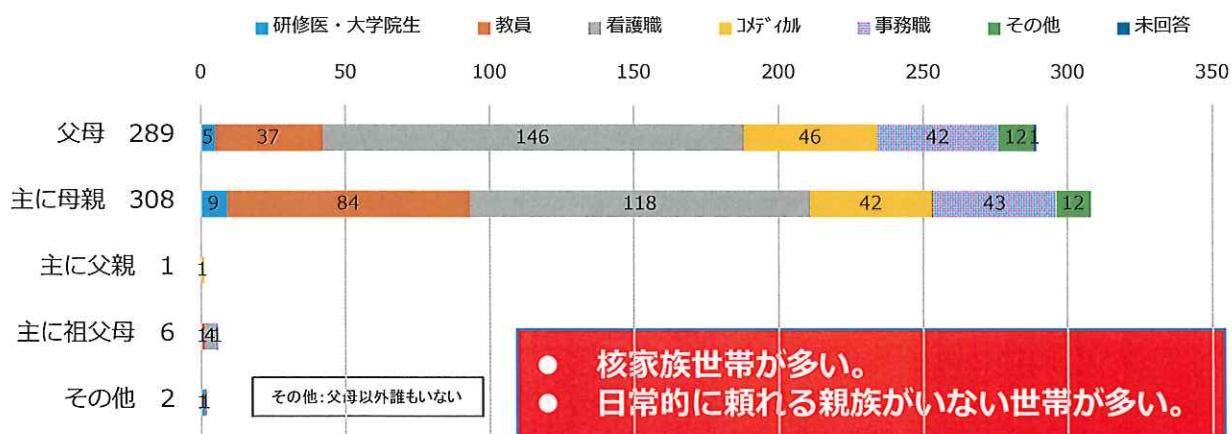
7.8.お子さんの年齢(小学校6年生まで) (複数回答可) n615



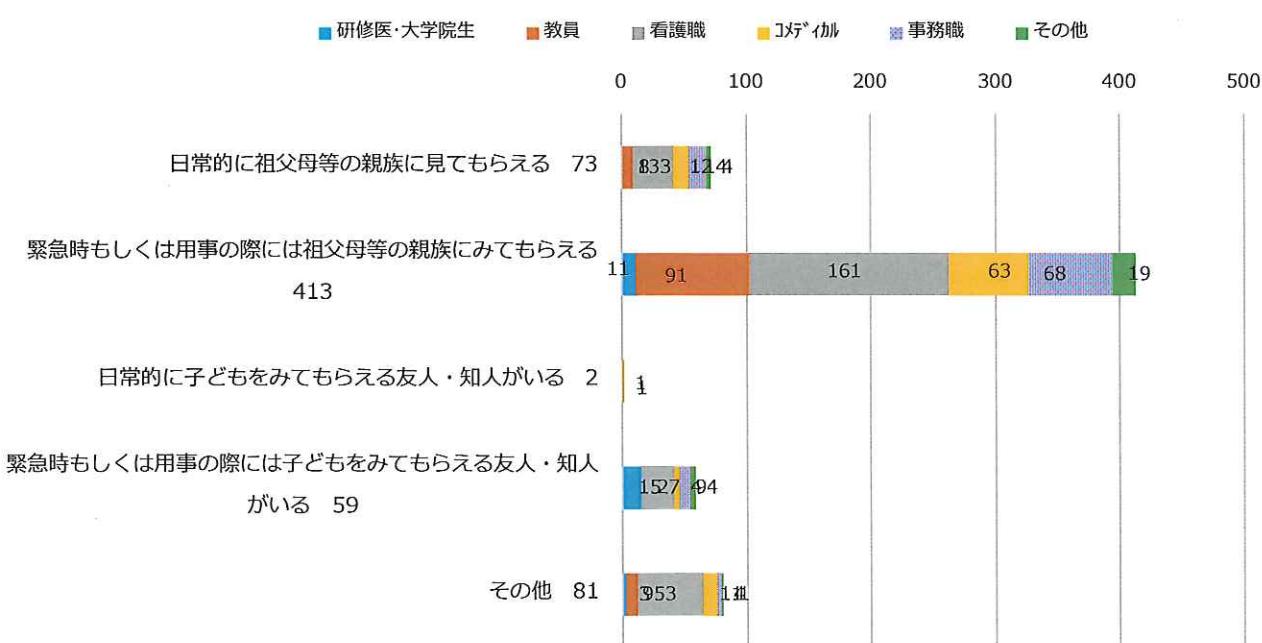
9.子供以外の同居家族(複数回答)n615



10.子育てを主に行なっている方(複数回答可)n615



11.お子さんをみてもらえる親族等・知人の有無(複数回答可)n615



12. 現在、幼稚園、保育園やサポートセンターなどの支援を「定期的」に利用していますか n 490



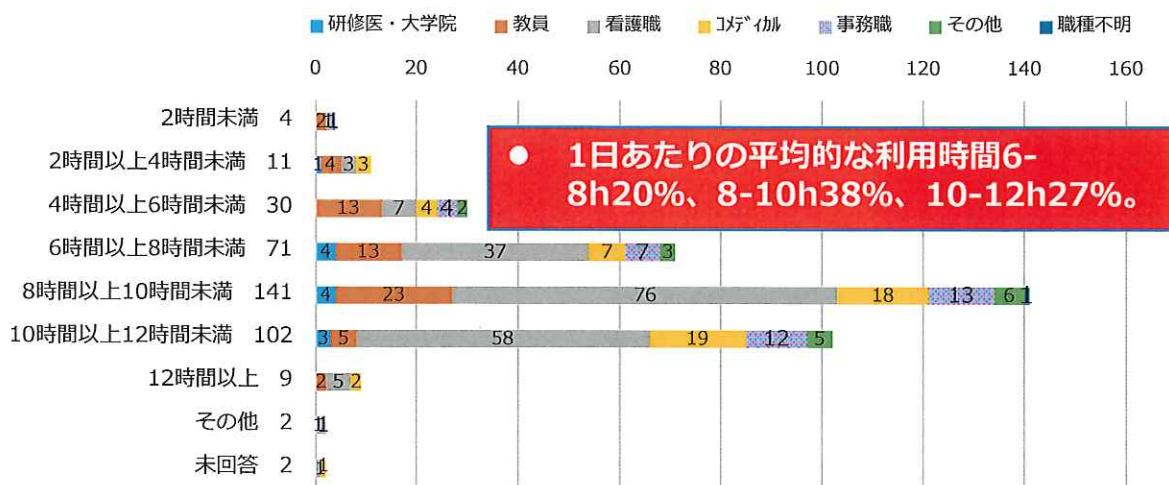
13. [12で利用している方] 年間を通じて平日に定期的に利用している施設や保育支援(複数回答可) n 372



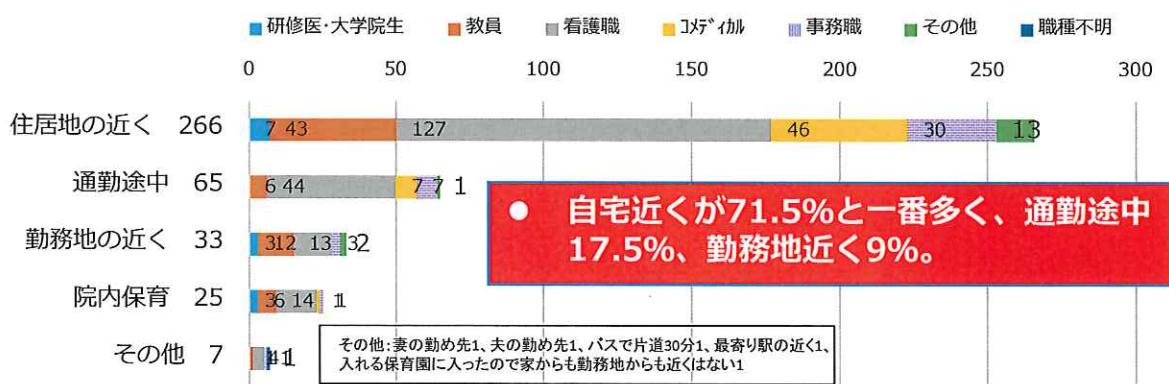
14. 定期的に利用している週あたりの平均的な利用時間 n 372



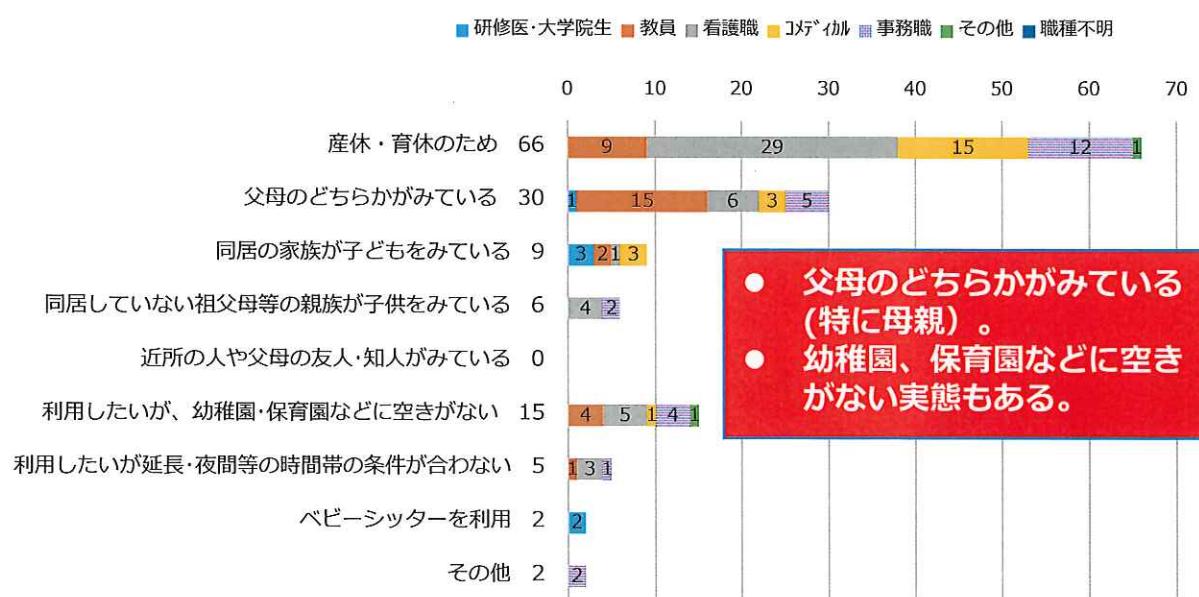
15.定期的に利用している1日あたりの平均的な利用時間 n365



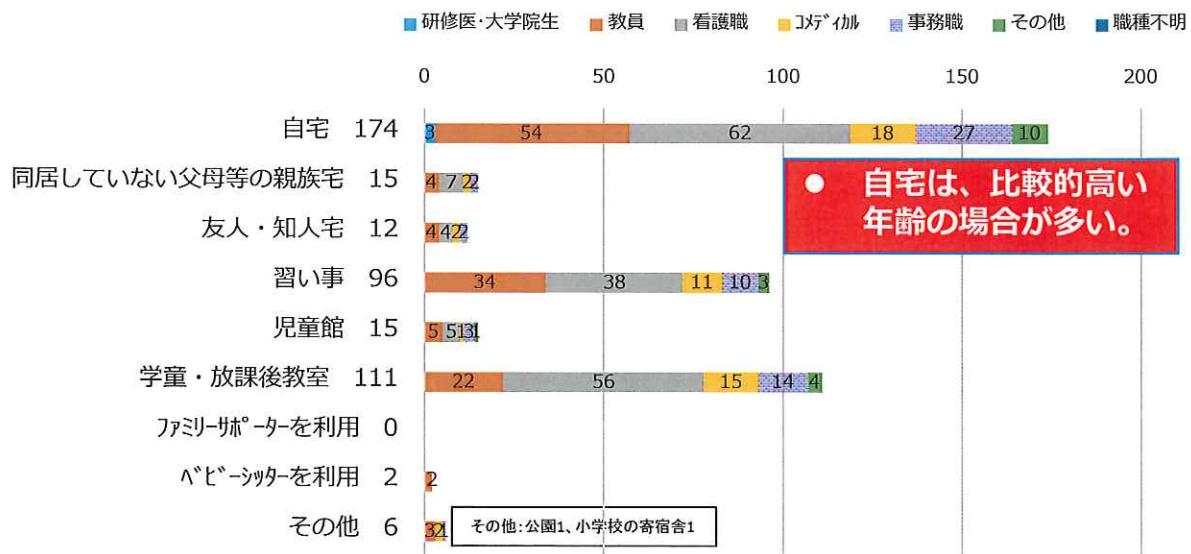
16.定期的に利用している施設の場所(複数回答可) n365



17.〔12で利用していない方〕幼稚園、保育園やサポートなどの支援を「定期的」に利用しない理由(複数回答可) n118

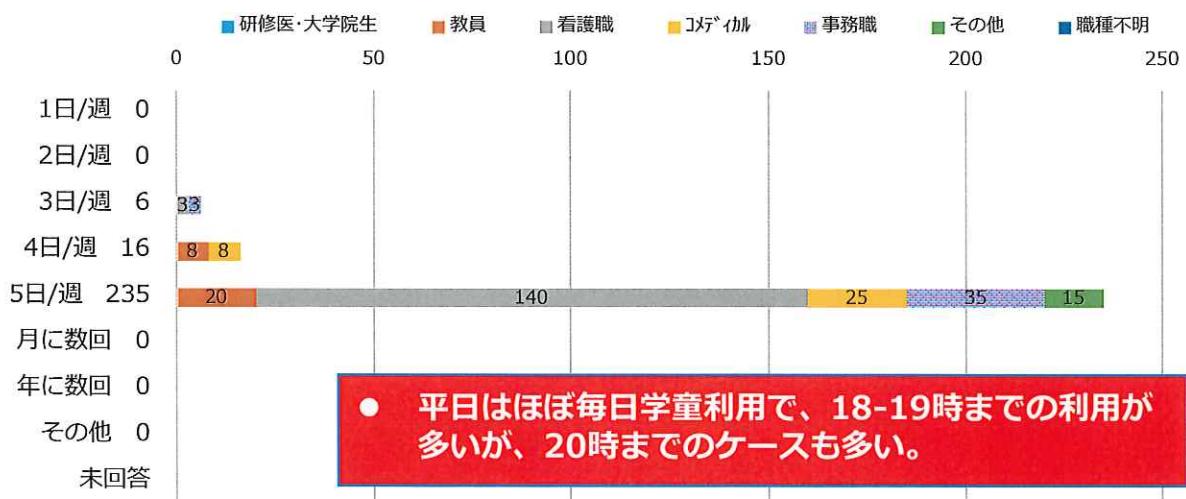


18. 小学校のお子さんが過ごしている場所(複数回答可) n241



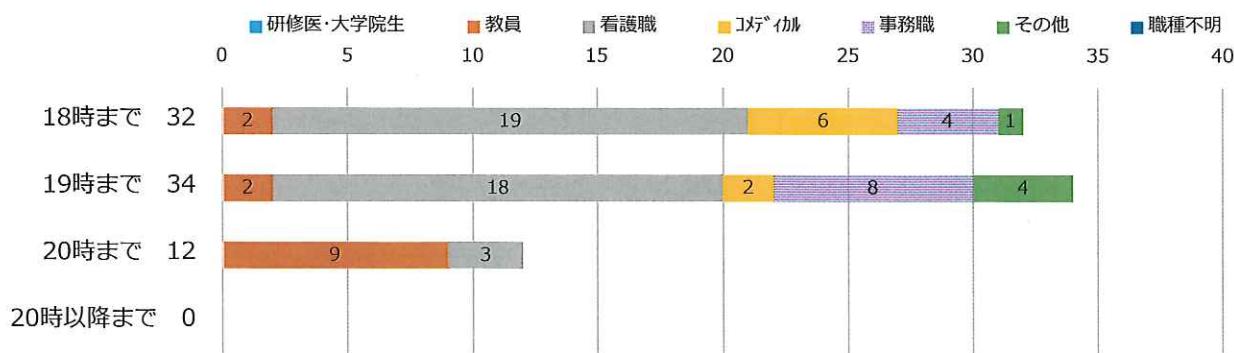
19. [18で⑥と回答した方] 学童・放課後教室を利用する方の利用日数

(お子さんが複数の場合は複数回答可)n111

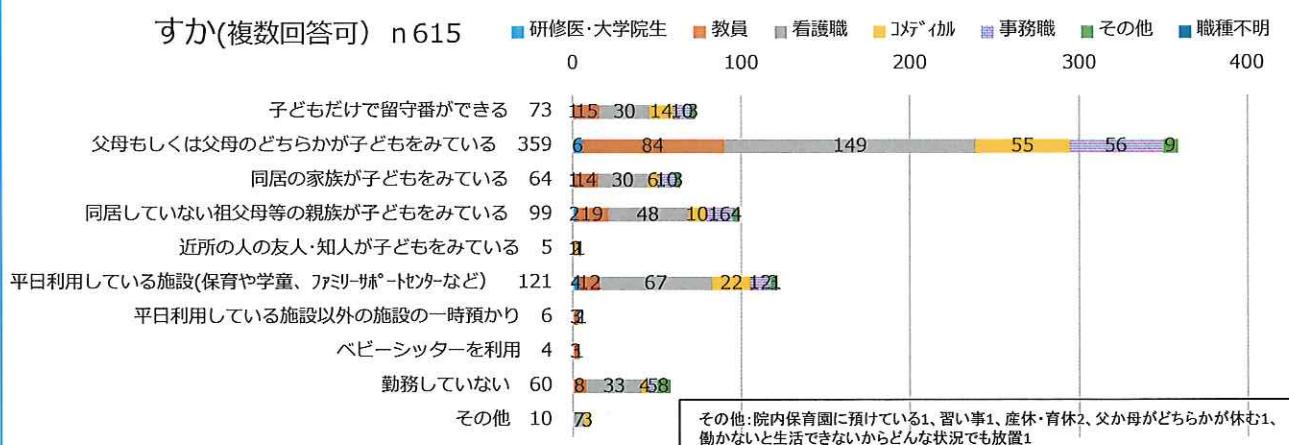


20. 学童・放課後教室の利用時間(1日) (お子さんが複数の場合は複数回答可)

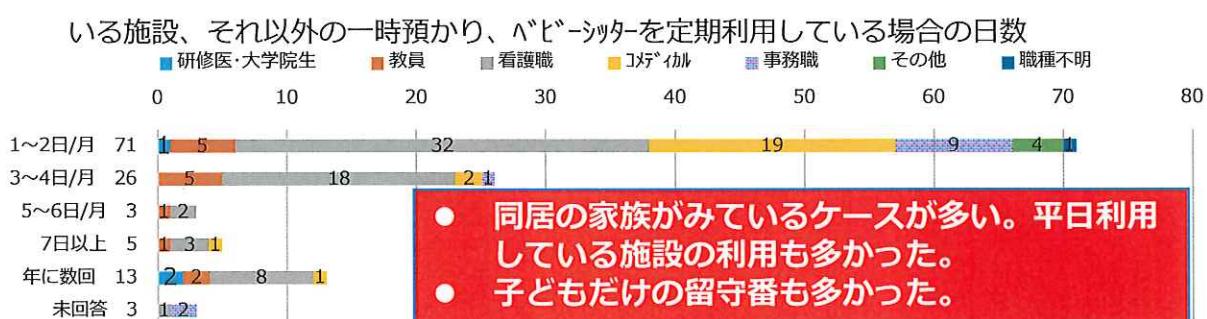
n 111



21. 土休祝日の日直等の就労時に、お子さんはどのように過ごしていますか？(複数回答可) n 615



22. [21で⑥⑦⑧を定期的に利用している方] 土休祝日の就労時に、平日利用している施設、それ以外の一時預かり、ベビーシッターを定期利用している場合の日数



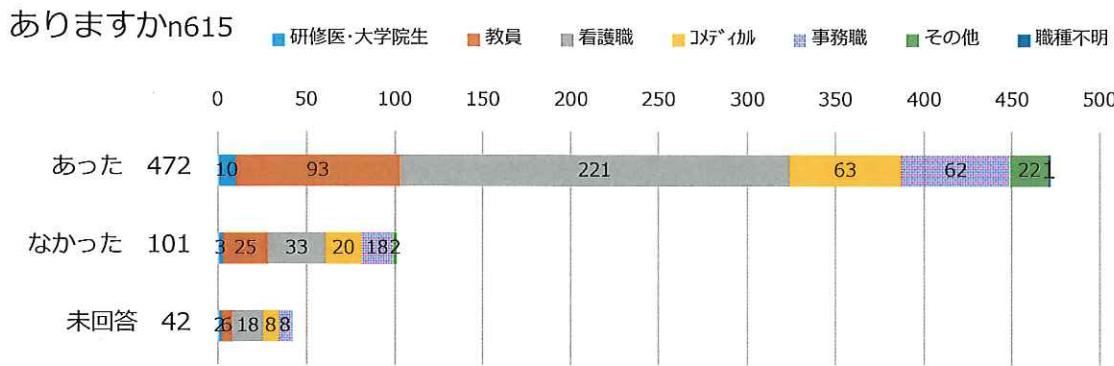
23. 当直や宿泊を伴う出張などの就労時、お子さんはどのように過ごしていますか？(複数回答可)



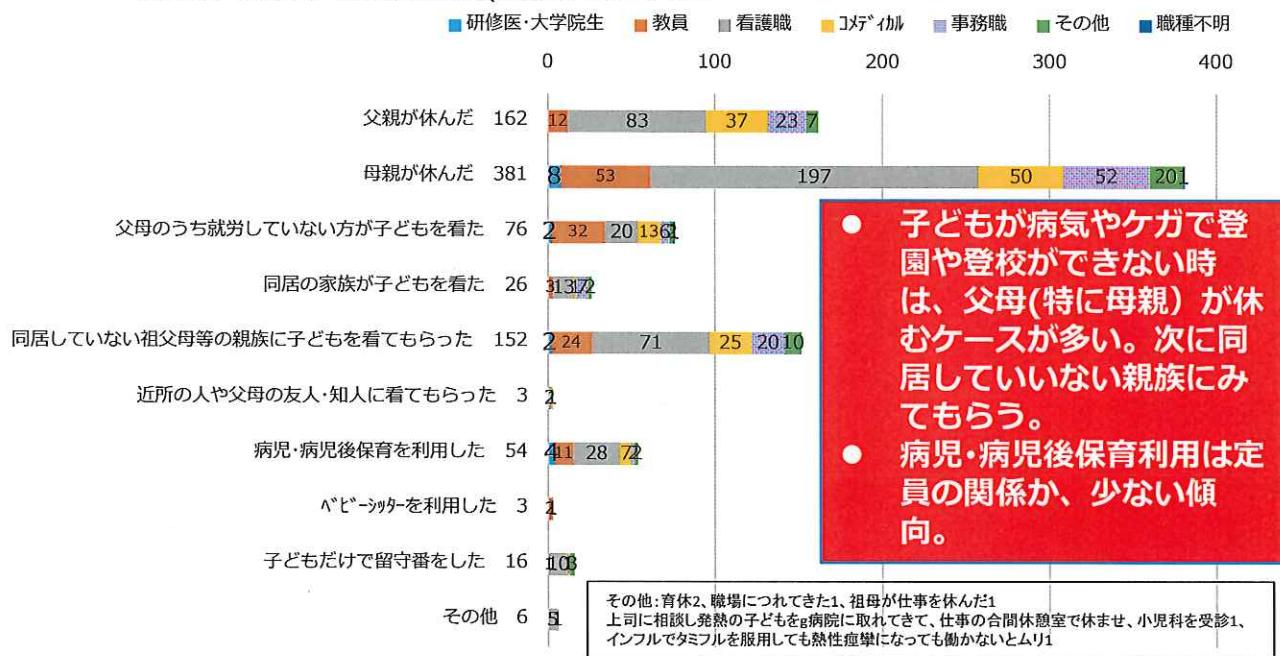
24. [23で⑥⑦⑧を利用している場合] 当直や宿泊を伴う出張などの就労時に、平日利用の施設、その他の施設の一時預かり、ベビーシッターを利用している場合、その



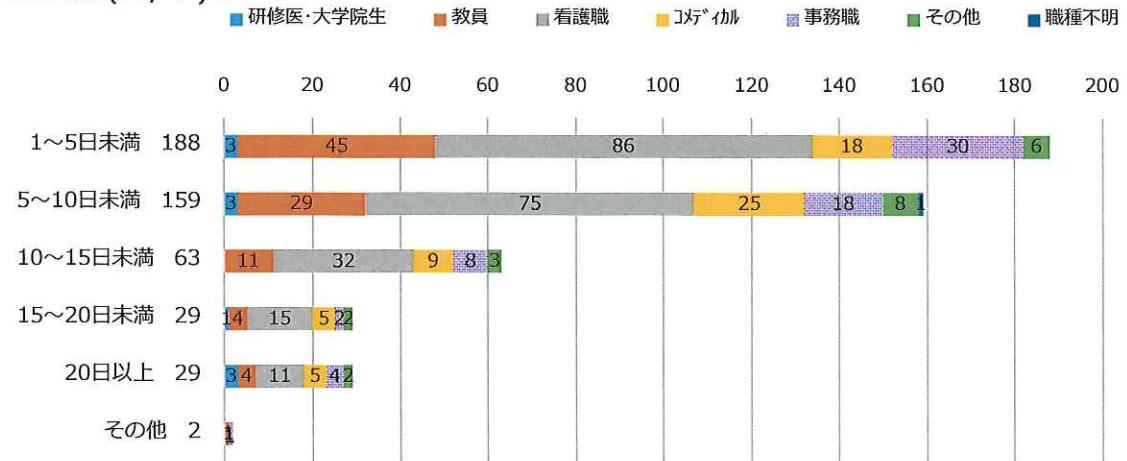
25.この1年間、子どもが病気やケガで通園や登校ができなかったことがありますか n615



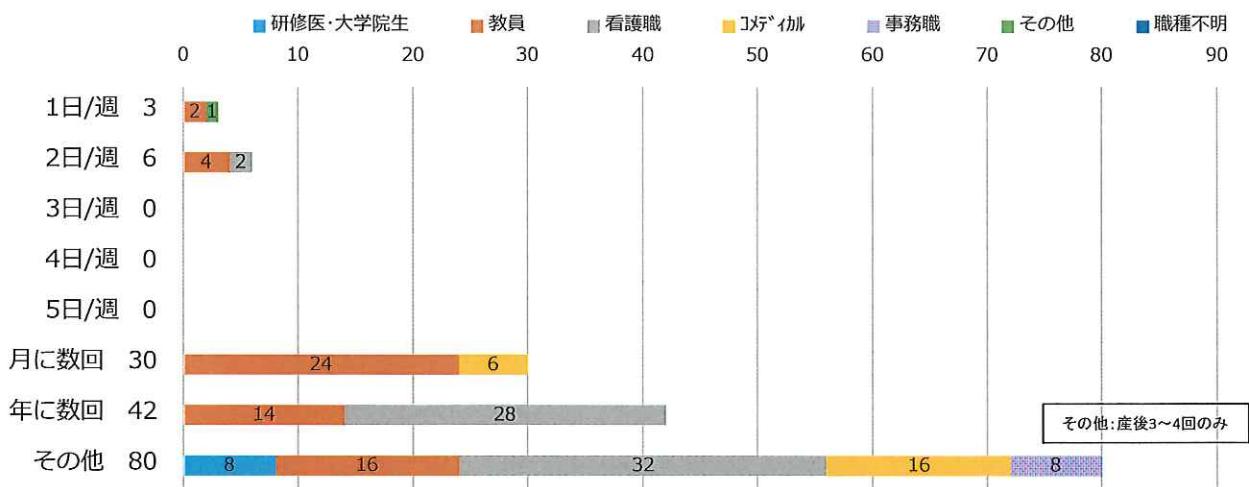
26.〔25で①の方〕この1年間で子どもが病気やケガで通園や登校ができなかった時の対応方法(複数回答可) n 472



27.この1年間、子どもが病気やケガで通園や登校ができなくなり対応した日数(日/年) n 472



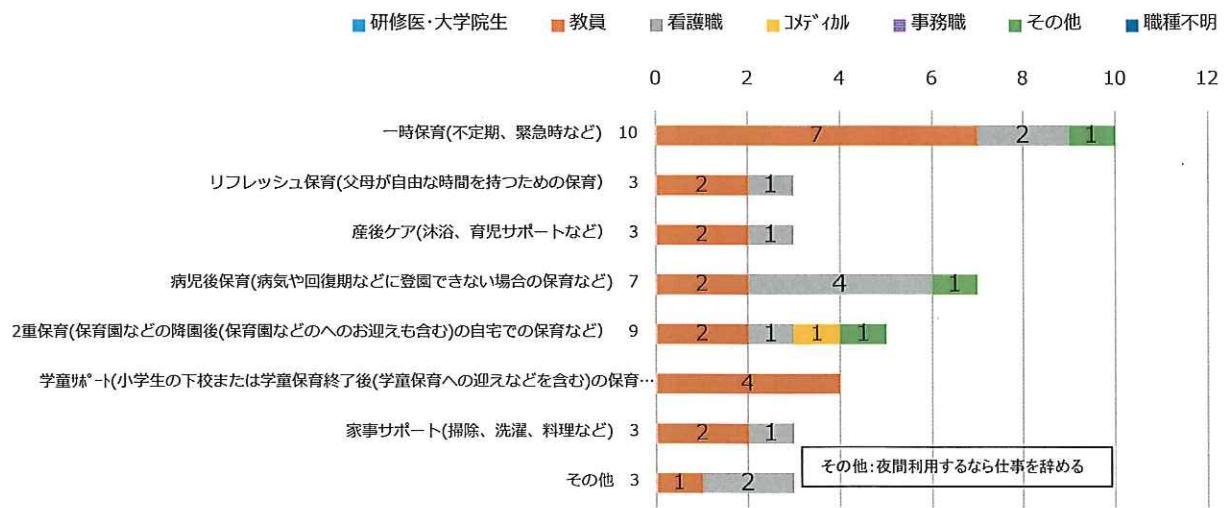
28. [ベビーシッターを利用している方 n 27] ベビーシッターの利用内容について

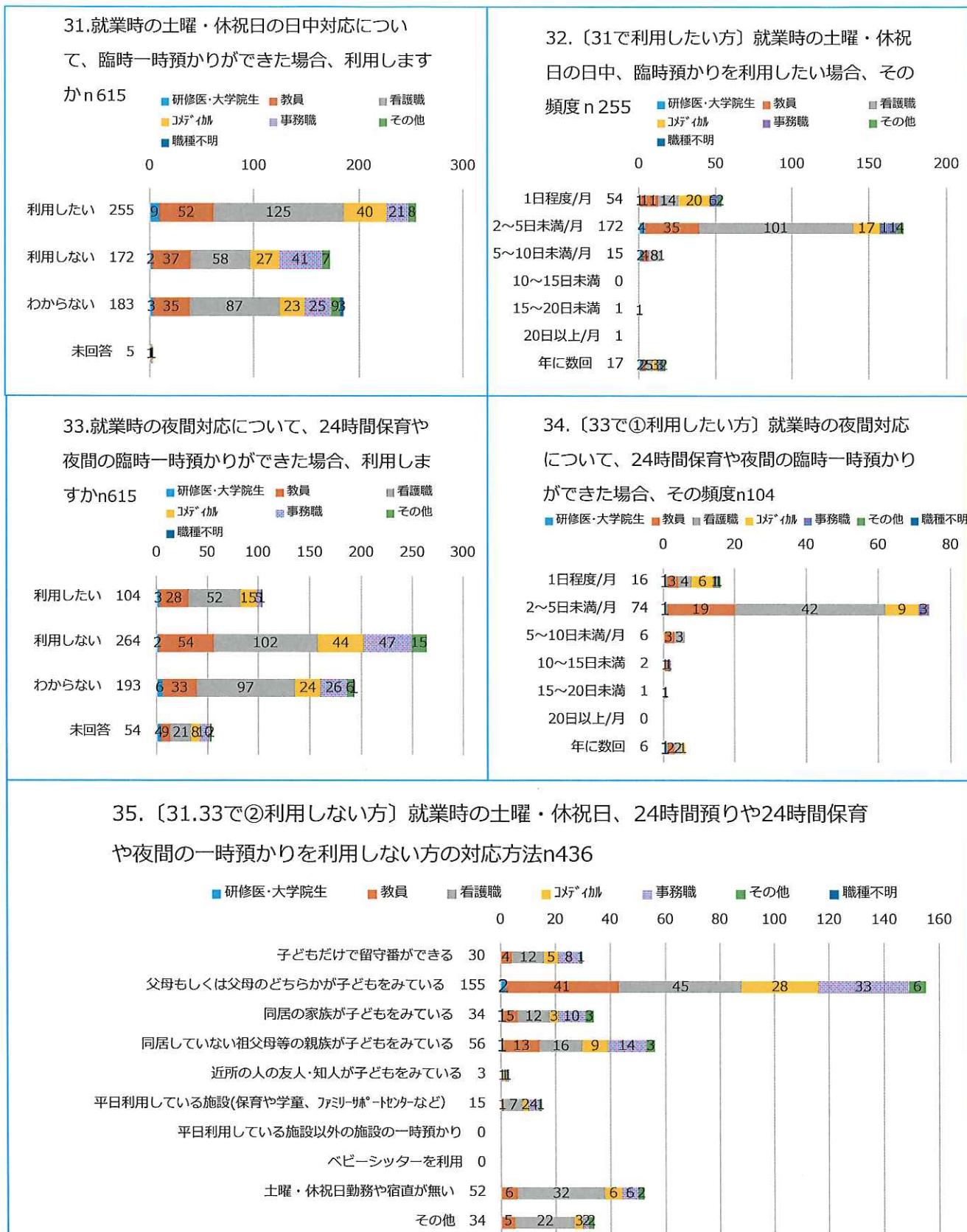


29.ベビーシッターの1日あたりの平均的な利用時間 n 27

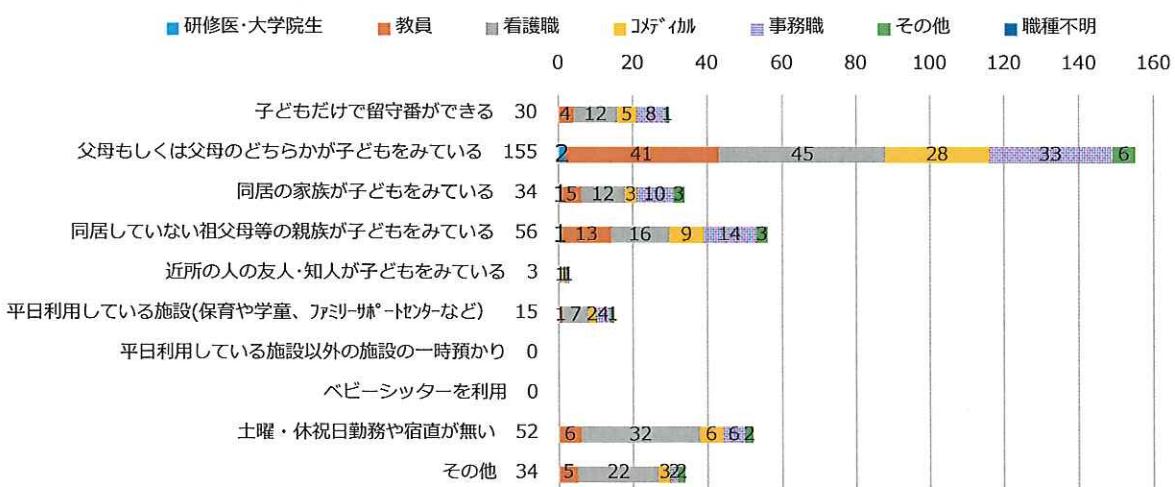


30.ベビーシッターの利用目的(複数回答可) n 27





35.〔31.33で②利用しない方〕就業時の土曜・休祝日、24時間預りや24時間保育や夜間の一時預かりを利用しない方の対応方法n436

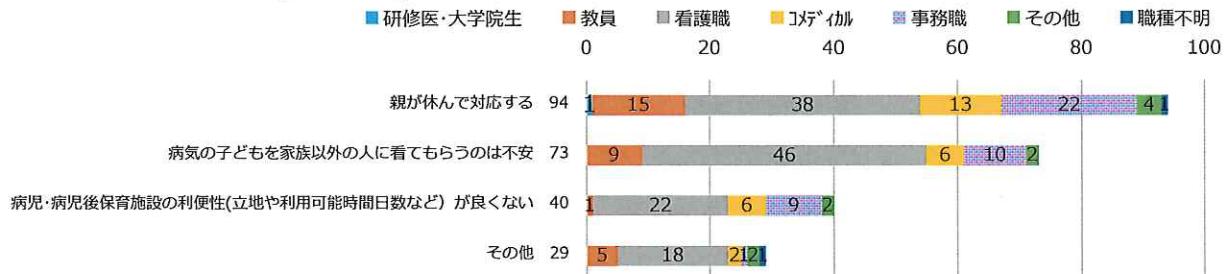


- 土曜・日祝日は「利用したい」が多く、24時間、夜間保育は「利用しない」が多い。個々に状況が異なることから、意見が別れた。
 - 「支援の充実」 = 「勤務の強制」であれば退職する、という意見複数あり。
 - いずれも、利用のニーズがあることが分かった。
- *回答者のうち52名は土曜・休祝日や宿直が無い。

36.子どもの病気の時、院内保育施設利用あるいは、院内で臨時病児預かりの支援
ができた場合、利用しますかn615



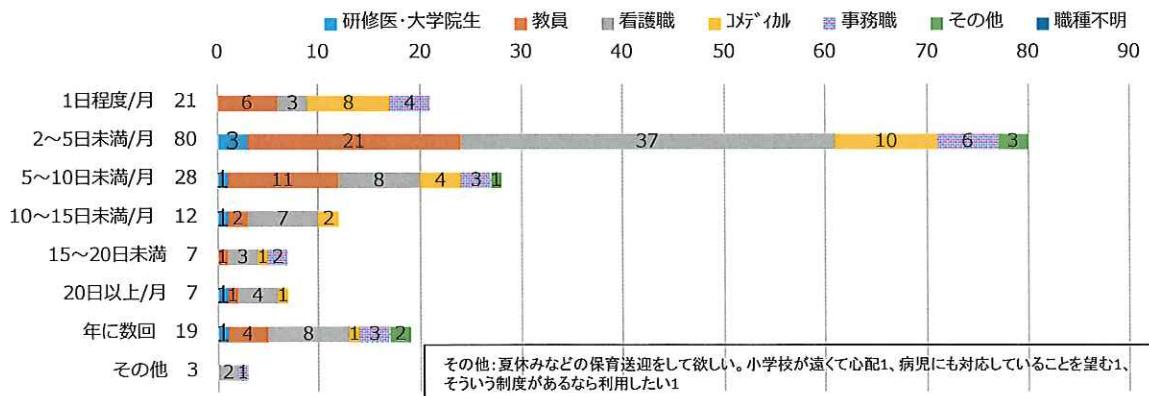
37.〔36で②利用したいと思わない方〕病児・病児後預かりの支援を利用したいと
思わない理由(複数回答)n159



38.就学前児童、小学生のお子さんについて、ベビーシッターカード費用補助を、就労時のみ費
用補助をする予定です。補助制度を利用しますかn615

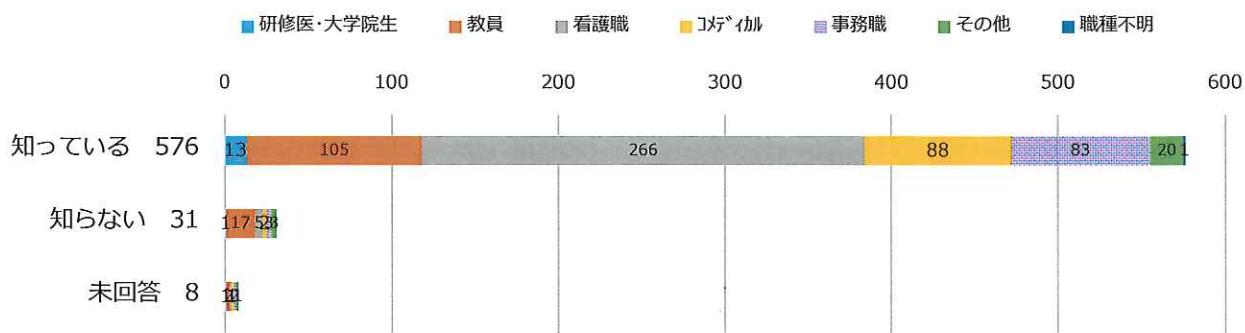


39.〔38で①利用したい方〕利用希望日数n174

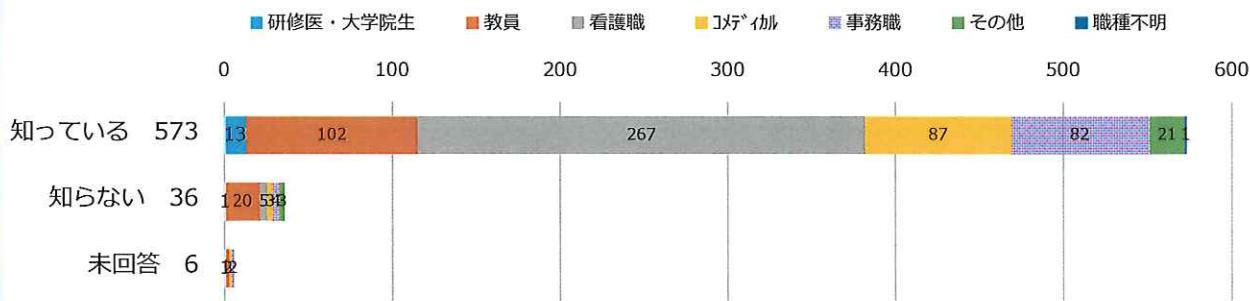


- 個々に状況が異なる。利用する、しない、は意見が別れた。
- 「支援の充実」 = 「勤務の強制」であれば退職する、という意見複数あり。
- いずれも、利用のニーズがあることが分かった。

40.産前産後休業制度を知っていますか n651



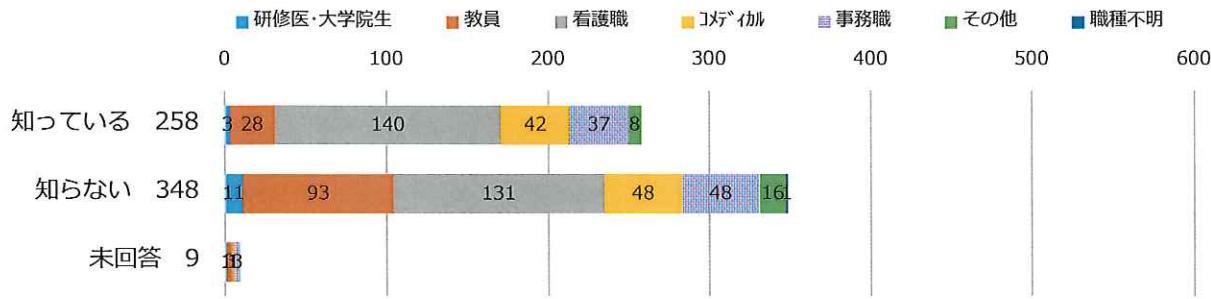
41.育児休業制度を知っていますか n651



42.短時間勤務制度を知っていますか n615

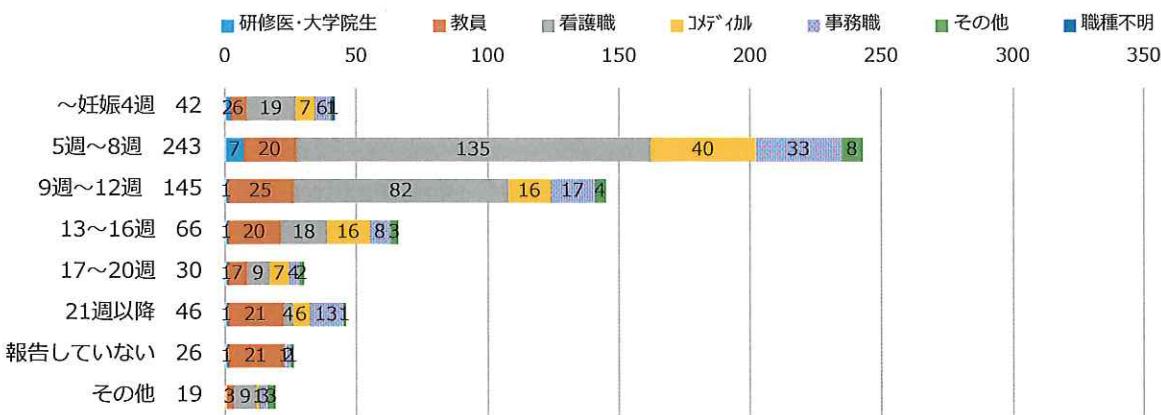


43.子の看護休暇制度を知っていますか n651



- 上司、現在利用可能な職員、将来利用する職員や学生へ、制度の周知が必要。特に、子の看護休暇制度は半数以上が「知らない」という結果になった。

44.職場の上司へ、いつごろ妊娠の報告をしましたか n=615

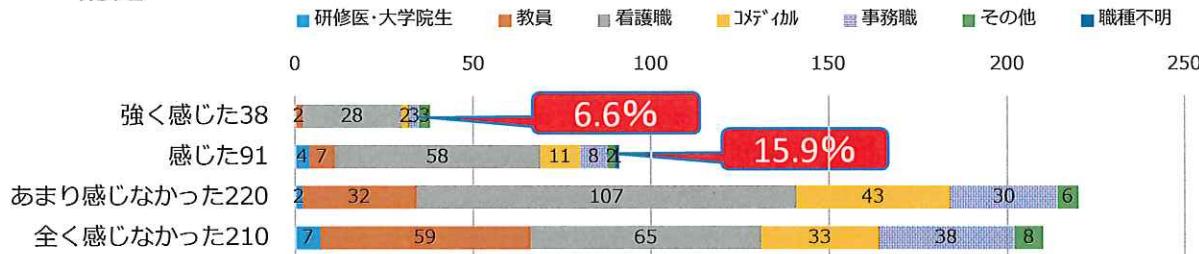


45.妊娠を報告することにためらいはありましたか n=572(報告をした人)



46.妊娠を告げたときの上司又は同僚の反応にストレスを感じましたか

n=572



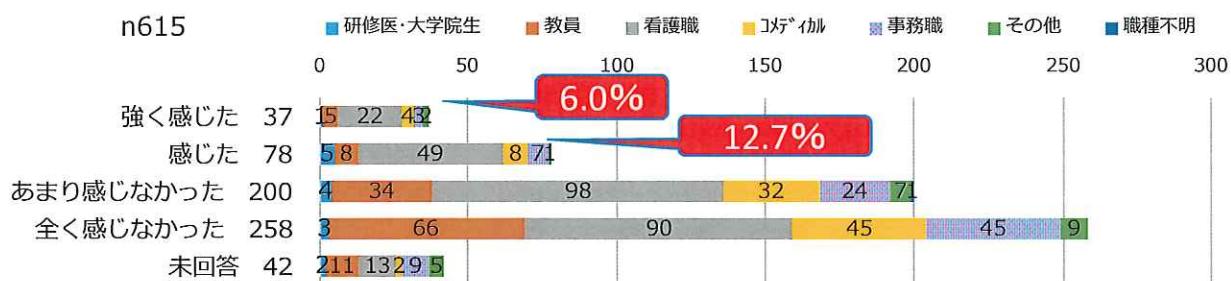
47.妊娠を報告することにためらいがあったと回答した方、その理由 n=222



- 妊娠報告へのためらい、職場の反応のストレスが「無い」の方が多いが、「あった」の回答件数も比較的多いことから、何らかの改善が必要と思われる。

48.妊娠・出産やそれに伴う体調不良(夫の場合は妻の) などをきっかけ

に不利益な取り扱いや嫌がらせ、ストレスを感じたことがありますか



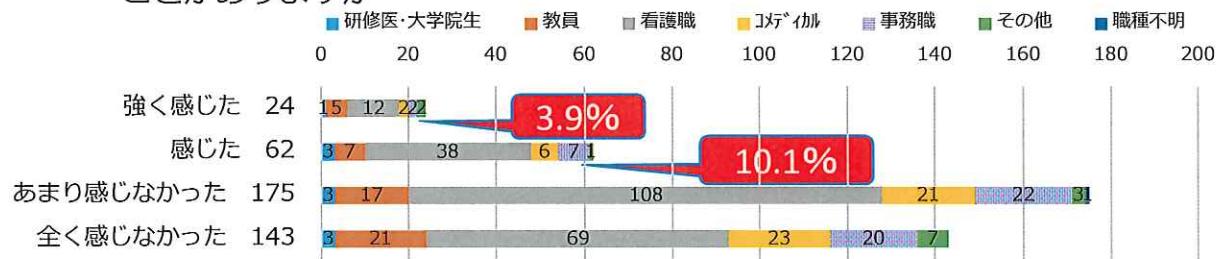
49.産前産後休業、育児休業を取得することについて不利益な取り扱い

や嫌がらせ、ストレスを感じたことがありますか

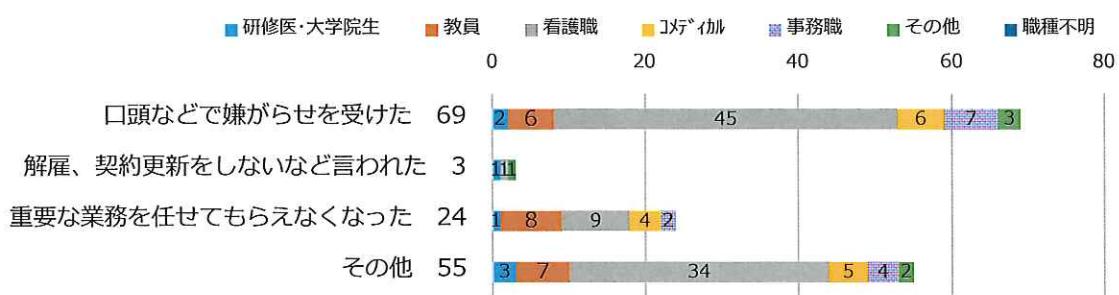


50.復職するに当たり不利益な取り扱いや嫌がらせ、ストレスを感じた

ことがありますか



51.〔48.49.50で①強く感じた②感じた方〕その理由

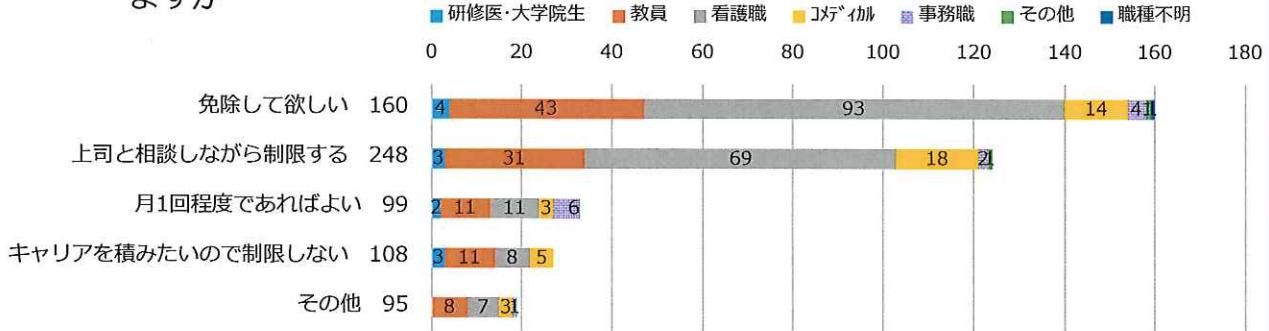


- マタニティハラスメント、パタニティハラスメントについては、上司への啓発、制度の理解、相談体制などの対策が必要。

52. [当直のある職種のみ] 妊娠時の当直について、どのように感じますか(夫の場合は、妻の妊娠中の自身の当直)

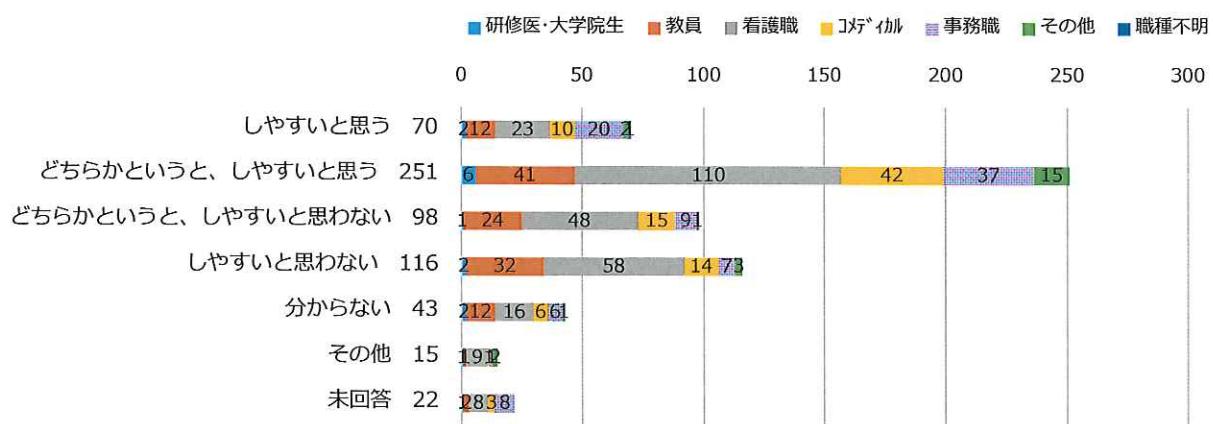


53. [当直のある職種のみ] 子育て中の当直について、どのように感じますか



- 意見は分かれた。

54.職場環境は子育てしやすいと思いますか



- 意見は分かれた。
- 上司の理解によるところもある。